

食品衛生情報 ふくおか

発行所
公益社団法人 福岡県食品衛生協会
電話 092-472-4803 FAX 092-472-6613
e-mail:honbu3@fukuokaken-shokkyou.jp

令和3年1月25日(月) 2020年度第10号
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目 19-17
トーカン博多第5ビル 705号
ホームページ: <http://www.fukuokaken-shokkyou.jp>

飲食店における冬季の感染症・食中毒の予防法 (その1) (新型コロナ、インフルエンザ、ノロウイルス対策)

(出典：食と健康 2020年11月号)

毎年冬になると、インフルエンザやノロウイルスの流行が懸念されますが、今年は新型コロナウイルスの影響もあり、注意すべきポイントが増えています。

そこで、各ウイルスの特徴と飲食店における予防法を今号と次号の2回に分けて紹介します。

〇はじめに

新型コロナウイルスの流行の終息が見えないなか、インフルエンザやノロウイルスの流行も危惧される今年の冬においては、例年以上に、これらのウイルスによる感染症や食中毒に備える必要があります。

〇各ウイルスの特徴

感染症・食中毒

感染症法により新型コロナウイルス感染症は指定感染症（2類感染症相当）に指定され、無症状病原体保有者を含む全例の届出が義務付けられています（令和2年9月18日現在）。

一方、インフルエンザ及びノロウイルスなどのウイルスや細菌が原因となる感染性胃腸炎は5類定点把握感染症に分類され、それぞれ定点医療機関からの報告で流行状況の把握が行われています。

なお、ノロウイルスは食品媒介感染を起こし、食中毒の主要な原因物質となっていますが、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスによる食品媒介感染の報告はありません。

感染源と感染経路

新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの主要な感染経路は飛沫感染で、接触感染も起こります。飛沫感染は、感染者の飛沫（咳・唾）を感染源として、それらを口や鼻あるいは目に浴びることによって起こります。また、接触感染は飛沫が汚染した場所に触れた手指などが、さらに口などを触れることで起こります。

新型コロナウイルス感染症の場合、人が密集した状況や閉鎖された空間などで、飛沫核が空気中に浮遊してエアロゾル感染を起こす場合もあり、発症の約2日前の潜伏期間でも感染源となります。

一方、ノロウイルスは感染者の便・おう吐物及びそれらの汚染物を感染源として、それらが汚染した場所から汚染を受けた手指などで口を触れることで起こる、接触感染が主体です。おう吐物の処理が不適切な場合、その中に含まれるウイルスが乾燥して空気中を漂い、それが口から入ることで起こる塵埃感染もあります。また、ノロウイルスによる食中毒は、調理従事者の手指などから汚染された食品、ノロウイルスに汚染されたカキなどの二枚貝を喫食することで起こります。

症状

感染してから発症するまでの潜伏期間は、新型コロナウイルスが約5日～6日、インフルエンザウイルスやノロウイルスは1～3日と数日で、新型コロナウイルスの潜伏期間は長い傾向にあります。

新型コロナウイルス感染の症状は、発熱や空咳などの呼吸器症状が主なもので、味覚障害や嗅覚障害を伴う場合もあります。また、インフルエンザに似た全身症状やノロウイルス感染症に似た胃腸炎症状を伴うこともあります。（裏面に続く）

インフルエンザの症状は、咳や咽頭痛などの呼吸器症状だけでなく、38℃以上の高熱、全身の倦怠感、食欲不振などの全身症状が強く出ます。しばしば、頭痛や関節痛・筋肉痛など呼吸器以外の症状を伴います。

ノロウイルス感染の症状は、おう吐・吐き気、下痢、発熱などの胃腸炎症状が主体です。

いずれのウイルス感染においても、典型的な症状を示さず、軽症感染や自覚症状のない不顕性感染を起こす場合もあります。そのため、臨床症状のみから、そのウイルス感染症かを診断することは難しく、検査が必要です。

20世紀以降のパンデミックを含む新型ウイルスの流行

発生時期	疾患名《俗称》	原因ウイルス名
1918～1920年	インフルエンザ《スペインかぜ》	インフルエンザ (A/H1N1)
1956～1958年	インフルエンザ《アジアかぜ》	インフルエンザ (A/H2N2)
1968～1969年	インフルエンザ《香港かぜ》	インフルエンザ (A/H3N3)
2002～2003年	重症急性呼吸器症候群《SARS》	コロナ (SARS-CoV-1)
2009～2010年	インフルエンザ《パンデミック (H1N1) 2009》	インフルエンザ (A/H1N1pdm)
2013～2015年	中東呼吸器症候群《MERS (マーズ)》	コロナ (MERS-CoV)
2019年～	COVID-19	コロナ (SARS-CoV-2)

各ウイルスによる感染症のまとめ

感染症の名称	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	インフルエンザ	ノロウイルス感染症
感染症法上の分類	指定感染症 (2類感染症相当)	5類定点把握感染症	5類定点把握感染症 (感染性胃腸炎)※
食品媒介感染 (食中毒)	無	無	有
感染源	感染者の飛沫(咳・唾)、呼気及びそれらの汚染物	感染者の飛沫(咳・唾)及びそれらの汚染物	感染者の便、おう吐物及びそれらの汚染物
感染経路	飛沫感染 エアロゾル感染 接触感染	飛沫感染 接触感染	接触感染 飛沫感染 塵埃感染
潜伏期間	5～6日 (長い場合2週間程度)	1～3日	1～2日
好発年齢	全年齢層 (大人が多い)	全年齢層 (子どもが多い)	全年齢層 (子どもが多い)
特徴的な症状	発熱、咳(空咳)、味覚・嗅覚障害、不顕性感染、高齢者で重篤化	高熱(38℃以上)、倦怠感、関節痛・筋肉痛	おう吐・吐気、下痢、発熱(主に38℃以下)、不顕性感染
治療法	対症療法 症状に応じ投薬	抗インフルエンザウイルス剤	対症療法

※ ウイルスや細菌を原因とするおう吐、下痢などの胃腸炎症状を主症状とする感染症、ノロウイルス感染症を含む

各種消毒剤などの使用目的と有効性

消毒剤など	使用目的など	各ウイルスに対する効果		
		新型コロナウイルス	インフルエンザウイルス	ノロウイルス※1
アルコール(エタノール)： 50～80%濃度	手指、環境	○※2	○	△
塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)： 0.02～0.5%濃度(使用目的などにより適宜選択)	環境、食器など	○	○	○
ポピドンヨード系消毒剤	手洗い、うがい(発症時)	○	○	○
次亜塩素酸水(電解型/非電解型)	手洗い、環境、食器など	○	○	○
塩化ベンザルコニウム:0.05%濃度	環境など	○	○	×
有効性が確認された界面活性剤を含む 家庭用合成洗剤など※3	衣類、環境など	○	—	—

※1：代替ウイルスの結果を含む

※2：○：有効、△：一部のアルコール製剤には有効と思われるものもある、×：無効、—：データなし

※3：独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ参照 <https://www.nite.go.jp/information/osirasedetergentlist.html>